

テーマは新型コロナ 総合学習の中間発表

安城学園高

安城市の安城学園高校で十八日、新型コロナウイルスをテーマにした総合的な学習「未来対話（フューチャーセッション）」の中間発表会があった。

授業でこの学習を選択する六十一人は、自身の関心事とコロナを結び付けて調べる過程で分かったことや、今後の学習課題などを報告した。



生徒が自主的に取り組む授業で、コロナと「自粛」

「医療」「生活の変化」「心理学」などのテーマを設定。

愛知学泉大や愛知教育大の教員、地元の防災団体やまちづくり会社の代表、老舗旅館のおかみらをゲストアドバイザーとして招いて成果を発表した。

コロナと「ゲーム×うつ病」について調べる小倉悠斗さんは「ソーシャルディスタンス（社会的距離）」と言われるが、物理的だけでなく心的距離を考えていくことも重要」と発言。「コミュニケーション」をテーマに選んだ藤原朱里さんは、マスク着用が当たり前になる中、身ぶり手ぶりのほかメールや電話などの手段も活用して意思を伝え合う必要性を訴えた。

大学教員らは「興味を抱

これまでの学習について発表する生徒ら＝安城市の安城学園高で

いたきっかけがよく分かった」「今後も新たな生活が続くなかで、自分たちができることが何かを考えてほしい」とアドバイザーた。

十一月二十七日に最終発表会を開く予定。